第 49 回 若年者心疾患・生活習慣病対策協議会総会

と き 平成 29 年 1 月 29 日 (日) 9 : 00 ~ 16 : 00

ところ 岡山県医師会 三木記念ホール

[報告 : 常任理事 今村 孝子]

総会は、昨年 3 月に竣工した岡山県医師会の三木記念ホールで開催された。このホールの入り口の一角には、医師である元岡山県知事の三木行治氏の業績を記したコーナーが設置してある。

総会の挨拶では、半世紀になる本協議会の歴史的な経緯や北村惣一郎 会長の日本医師会長特別表彰受賞の報告等がなされた。

ワークショップ「岡山県での小児生活習慣病への取り組み」では、吉備医師会の山本裕子 先生から、スクリーニング者のうち医療機関受診者は

低身長は 50%、肥満は 25% で、やせは少なく、受診率を上げることが今後の課題であるとの発表があり、倉敷市立西阿知小学校栄養教諭の富谷圭子 先生から、文部科学省委託「スーパー食育スクール事業」として、生活習慣の向上を目指した“生活振り返りカード”の活用や Web での食育支援システム“くらしき市版ヘルスジャッジ”の紹介があった。岡山市立操南中学校栄養教諭の宮宗香織 先生からは、「スーパー食育スクール事業」として中学生版人間ドックを実施し、個別指導や学

プログラム		(敬称略)
総会司会	岡山県医師会学校保健担当理事	私藤 正浩
開会挨拶	若年者心疾患・生活習慣病対策協議会会長 第 49 回若年者心疾患・生活習慣病対策協議会総会会長・ 岡山県医師会会長	北村惣一郎 石川 結
来賓挨拶	日本医師会会長 岡山県知事 岡山県教育長	横倉 義武 伊原本隆太 竹井 千庫
ワークショップ「岡山県での小児生活習慣病への取り組み」	座長：国立病院機構岡山医療センター診療部長	久保 俊英
1. 「総社市における低身長肥満やせのスクリーニングの試み」 ～医師会、教育委員会、保育協議会の連携による～ 吉備医師会(医)やまもと医院(小児科医)		山本 裕子
2. 「学校・家庭・地域の連携を深め、共に学ぶ私たちの食と健康」 ～文部科学省委託「スーパー食育スクール事業」を通して～ 倉敷市立西阿知小学校(栄養教諭)		富谷 圭子
3. 「客観的指標を用いた食育の実践」 ～文部科学省「スーパー食育スクール事業」における取組～ 岡山市立操南中学校(栄養教諭)		宮宗 香織
4. 「進んで生活リズムの向上に取り組む児童の育成を目指して」 ～市内共通の取り組みと指導・啓発の工夫～ 井原市立吉野小学校(養護教諭) 井原市立佐原小学校(養護教諭)		原田 彰可 相原佳奈江
5. 「私たち、地域ボランティアが小学校で喫煙予防教室を実施しました。」 操南中学区健康市民おこしやま21推進会 同 同 同 岡山市保健所健康づくり課(保健師)		柴田 育 山崎真理子 塩飽 伸子 樽木 瓊子 木村 洋子
6. 講評	日本医師会常任理事	道永 麻里
特別講演Ⅰ	座長：大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院副院長 「子どもの心臓外科手術の過去、現在、そして未来」 岡山大学医学部薬学総合研究科心臓血管外科教授	新垣 義夫 笠原 真樹
若心協学術研究委員会 報告		
休憩「評議員会」		
総会	座長：若年者心疾患・生活習慣病協議会副会長 議長：若年者心疾患・生活習慣病協議会会長	長嶋 正實 北村惣一郎
議事	○協議会会長挨拶 ○総会会長挨拶 ○平成 27 年度事業・決算の承認 ○平成 29 年度事業計画・予算の決定・報告・協議 ○役員交代の報告 ○次期開催地挨拶 愛知県医師会会長	
一般演題「倉敷市における学校心臓検診の現状と学校での対応」	座長：岡山県医師会学校保健担当理事	國富 泰二
1. 「倉敷市の学校心臓検診の現状」 (医)藤井ハートクリニック院長		藤井 晶子
2. 「学校での対応」 倉敷市教育委員会保健体育課主幹(保健担当)		徳森 育子
特別講演Ⅱ	座長：岡山大学大学院医学部薬学総合研究科小児循環器科教授 「小児肥満の現状とこれからの課題」 国立病院機構鹿児島医療センター小児科	大月 審一 吉永 正夫
特別講演Ⅲ	座長：川崎医科大学小児科准教授 「子どもの心臓病における内科的治療の進歩 ～過去・現在・そして未来～」 大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院小児科主任部長	大野 直幹 脇 研自
総括	日本医師会常任理事	道永 麻里
閉会	岡山県医師会副会長	清水 信義

年別の全体指導に加え、アンケート解析から「学力をのばしたいあなたへ」、「部活動がんばりたいあなたへ」のチラシを作成したことなどの発表があり、井原市立青野小学校の原田彩可先生と同荏原小学校の柏原佳奈江先生の両養護教諭からは「食べて動いてよく寝よう！」をテーマとして、電子メディア使用実態を調査し“午後 9 時以降の電子メディア使用制限”を提唱していることについて発表があった。操南中学区健康市民おかやま 21 推進会の 4 人の推進員と岡山市保健所の木村洋子さんから、喫煙予防教育にアサーティブコミュニケーション技法を用いた成果として、推進員が実施したことにより多世代との交流、コミュニケーションスキルが獲得できたとの報告があった。道永麻里 日医常任理事からの講評として、①成長曲線使用のポイントはソフト活用、②子どもの貧困と肥満・やせの問題、③子どもに関しての多職種連携の必要性、④活動の継続の重要性が語られた。

特別講演 I では、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授の笠原真悟先生により、まず小児心臓外科の黎明期である 1944 年に行われた Blalock-Taussig 手術や 1953 年に人工心肺を使った開心術などの“過去”について、次に 20 年前は新生児開心術の手術死亡率は日本では約 30% と欧米に比すと見劣りしていたものが同率となった“現在”について説明された。単心室症については、両方向性 Glenn 手術、Fontan 手術で成人に達するようになったが心不全や不整脈で遠隔死することが多い状況にあり、2011 年から岡山大学では世界に先駆け、心筋の再生医療を 40 人以上に施行し驚くべき成果が挙げられていることから、「今後（近い“未来”）、多くの先天性心疾患患者さんに応用されるよう研究を重ねる」と講演を結ばれた。

総会では、厚生労働大臣や文部科学大臣に宛てた学校心臓検診・生活習慣予防に関する要望書の承認や「川崎病急性期カード」の一部変更（管理不要とした時期を記載できる欄を設ける）への申し入れをすること等の報告がなされた。

午後からの一般演題としては、藤井ハートクリニック院長の藤井晶子先生から、倉敷市の学校心電図検診の現状と問題になった症例の提示が

あった。倉敷市は、小学生には省略 4 誘導の心電図と心音図、中学生には 12 誘導心電図と心音図、高校生には 12 誘導心電図を実施、約 15 ～ 25 名の医師（循環器内科、小児科）ですべての判読を行い、要精査分は数名の医師によるダブルチェックで最終決定をしているとのことである。倉敷市教育委員会の徳森育子さんからは、精密検査後の学校対応を中心に結果報告がなされた。なかでも小学 1 年生の心電図・心音図検査を正確に実施するために、受け方を事前にしっかりレクチャーされている映像が印象的であった。

特別講演 II では、国立病院機構鹿児島医療センター小児科の吉永正夫先生が、小児肥満の多くは思春期、成人期まで tracking するため、介入の重要性が認識されているにもかかわらず成功していない現状に対して、介入時期・方法については日本に適したものが必要と述べられた。介入時期としては、3 歳児健診時は一次予防（情報提供）とし、本人の自覚、家族、社会（学校、医療現場）の協力が得やすいので小学生低・中学年が一次・二次予防として優先される時期であるとされた。また、日本人に合った介入方法としては、“休日に 1 万歩歩く”が効果的であるとされ、今後、運動指標だけではなく、睡眠時間等について効果的な介入指標を決めるための prospective study の必要性を提言された。

特別講演 III では、倉敷中央医療機構倉敷中央病院小児科主任部長の脇研自先生により、まず薬物治療として、動脈管依存症心疾患にプロスタグランディン E1、慢性心不全に対しての β ブロッカー、肺動脈高血圧症に対してのプロスタグランディン I2 についての説明をされ、続いて心臓カテーテル治療の飛躍的な進歩について話された。開胸することなく治療が可能となった理由として、デバイスのみでなく、心エコー、CT、心腔内エコーなどの画像診断の進歩によるところも大きいとされ、今後の展望としては、シミュレーション技術の臨床応用、肺動脈弁閉鎖不全に対するカテーテル治療の導入、最重要疾患への胎内カテーテル治療などが期待されると結ばれた。

次回の第 50 回総会は愛知県医師会主催、次々回の第 51 回は大阪府医師会主催と決定した。